

大学生とその親世代のSNSの利用実態 —交友関係と生活リズムを中心に

三溝凜 (22111168@tama.ac.jp)

1. 研究の目的

本研究は、大学生の親世代とその子供の大学生を対象とし、SNSの利用の仕方やSNSによる日常生活への影響度合いなどの違いについて明らかにする事を目的とする。

デジタル化が発展し様々な種類SNSが多くある現代では、インターネット上でさまざまな人の投稿を見ることや、不特定多数の人との交流ができるようになった。SNSの発展により誰もがネット上で簡単に情報を入手できるようになり、とても便利なものである。

しかし豊富にあるSNSの影響により生活のリズムや友人関係、物事の考え方など、人々に少なからず良い影響、悪い影響どちらも与えている。その中でSNSがあまり発展していなかった親世代と、現在の大学生の人たちではSNSの利用の仕方や、生活への影響度合い、利用目的などさまざまな違いがあるのではないかと考えた。その違いを明らかにしたいと考え、この研究を行うこととした。

2. 先行研究の分析

加納(2019)によると、承認欲求が高い者は、リツイートなど承認機能のあるソーシャルメディアをよく利用し、スマホ依存に陥りやすい傾向にあった。承認欲求の高い者はTwitter、Instagram およびネット検索をよく利用し、スマートフォン等に常時接触をしていた。一方、承認欲求の低い者は、Twitter, Instagram およびネット検索の利用頻度が低く、スマートフォン等に常時接触していなかったことが分かった。

1

吉田ら(2015)によると、Twitter と Facebook とでどのように嫉妬が異なるかを調査したところ、Twitter では「友人同士が遊んでいる内容」「買い物」「食事」などの日々の些細な行動

¹加納 寛子(2019)「承認欲求とソーシャルメディア使用傾向の関連性」、『情報教育』Vol. 1, pp.18-23

についての投稿に嫉妬するという被験者が多かったのに対し、Facebook では、「旅行」「留学」「自分にできないことをしている内容」などの非日常的な行動についての投稿に嫉妬をするという被験者がいた。Twitter では日々の些細な行動の報告に対しFacebook では特別なイベントについての投稿に対し嫉妬すると考えられる。²

3. 調査方法

クラウドワークスを利用し、現役大学生と、その親世代の40代～60代を対象としアンケートを行う。

Googleフォームで回答してもらおう。

主な調査項目

- SNSの利用状況
- SNSの閲覧・投稿頻度
- SNSの利用制限をしているか
- 生活のリズムの変化について
- リアル・ネット上の交友関係について
- 起床・就寝時間、平均睡眠時間

4. 今後の課題

先行研究をふまえてアンケート項目を見直す。

アンケートの実施と分析を行う。

²吉田翔吾郎、土方嘉徳(2015)「ソーシャルメディアにおける嫉妬心と行動の相関に関する基礎的調査」、『ARG W12』No.6